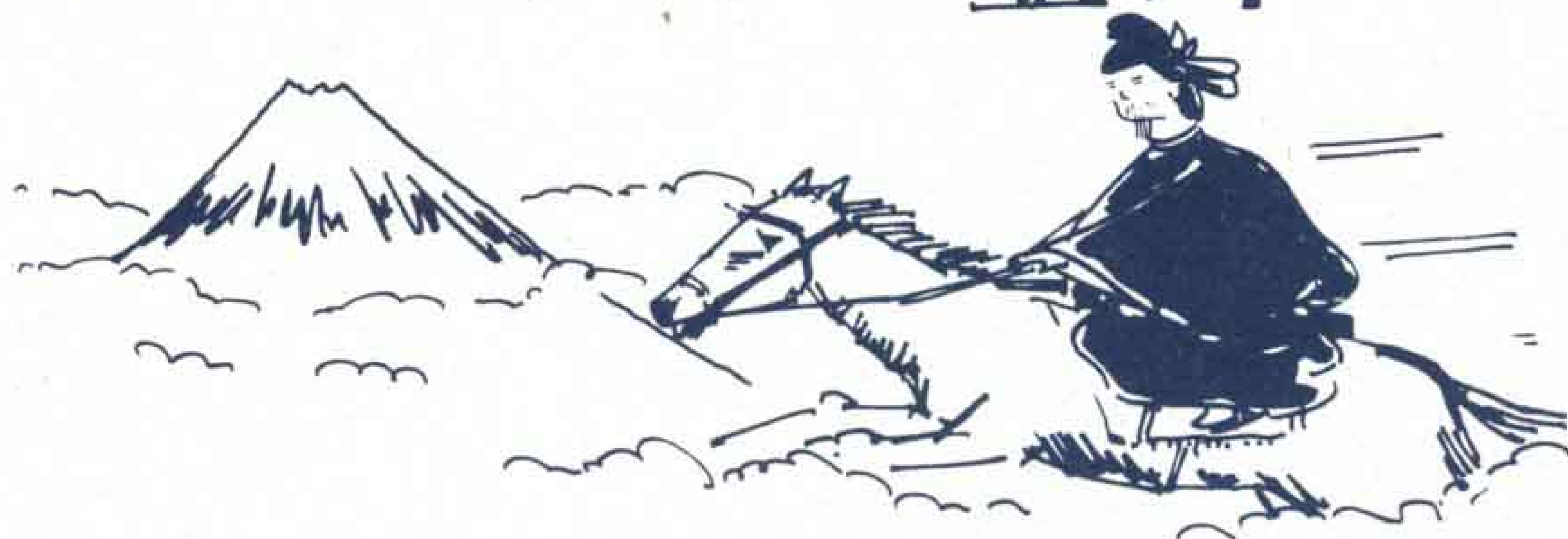


# ふるさとの昔話

## 聖徳太子の富士登山



私たちが誇る日本一の富士山、この富士山に、第33代推古天皇のとき、摂政であった聖徳太子が馬に乗り、空を飛んで富士登山をしたという伝説があります。今回は、鈴木富男著「富士市の伝説と昔話」の中から聖徳太子の登山の話を紹介します。

### 山の神に教えを請う

聖徳太子が摂政の頃、良い馬を献上させた話は有名です。多くの馬の中で、すばらしい馬が一頭いました。

太子は大層喜び大切に飼わせました。その年の秋、調教ができたのでためし乗りをしました。太子がまたがり、手綱を引きムチをあてると、馬はすごい勢いでとびだし、東の空へ飛んでいきました。アッ、と驚いた宮人たちは、顔色を変えて騒ぎだしましたがどうしようもありません。

ところが3日目の朝、太子はひょっこり帰り「とても愉快だった。空へ飛び上がって、雲の中をしばらく飛んだと思ったら、富士山の頂上だったよ。富士山を見物して帰ってきた。」とおもしろそうに話しました。

御殿へ上った太子は、富士山の出来事を詳しく話しました。

「頂上におけると大きな岩穴があった。この穴を進むと金色に輝く岩が並び、金銀でつくられた美しい門があった。さらに進み、奥の院らしい境内へ入ると両眼をぎらぎらさせ、剣のような舌をだし、口から火を噴いている大蛇がとぐろを巻いていた。

私はこれが山の神だと思い、ひざまずいて『人民のためにどのような政治をしたらよいか教えてもらいたい』とお願した。すると大蛇は、大日如来の姿に変わり『和をもって貴しとなし、あつく三宝をうやまい、礼をもって本とせよ』とおおせられた。私は必ず教えに従うことを約束して、再び馬に乗って帰ってきた。」と一同に話しました。

## 地名の由来

### 柏原新田



江戸時代には、西中東の三つの村に別れていた農漁村でした。三村の中心は西柏原新田で、ここには間の宿柏原があり、ウナギのかば焼を名物として大へんにぎわいました。

「柏原」という地名の起こりは明らかではありませんが、平安時代にあったとされる東海道柏原駅は、この付近にあったという説もありますが定かではありません。

## 古墳のはなし



### 古墳と祖先の生活



横穴式石室を持つ実円寺西1号古墳

### 「追葬」

石室の中に多くの副装品を入れますが、なぜでしょうか。

古墳時代は、死後の世界が特に強く信じられていた頃でした。

このため、死後の生活に必要な装飾品をつけて正装し、さらに食べ物、武器、宝物を持って埋葬されました。

今のお墓は、火葬した骨を骨壺に入れ、家族の葬られているお墓に埋葬しています。

これは家族全員を埋葬するため、お墓の入口を簡単に開けることができるように作ってあるからです。このように一つのお墓の「主体部」に家族を次々と埋葬することを「追葬」といいます。古墳時代の初めごろは「竪穴式石室」というただ一人が埋葬される石室でしたが、6世紀になると古墳は家族のお墓となり、追葬のできる「横穴式石室」になりました。

### こちら編集室

ことしの夏は異常と思えるほどの暑い毎日でした。そんな中で、我ら編集員もカメラを片手に汗をふきふき取材に東奔西走。ここへ来てやや夏バテ気味です。みなさんも健康には十分ご注意を。